

2021年11月12日

## 使用済みプラスチックの再資源化事業に取り組む 「株式会社アールプラスジャパン」への資本参加

株式会社ヤクルト本社（社長 成田 裕）は、持続可能な社会の実現に向けて、プラスチックに関わるさまざまな社会課題の解決に貢献すべく、共同出資会社「株式会社アールプラスジャパン」（以下、アールプラスジャパン）に資本参加します。

当社は、2021年3月に人と地球の共生社会の実現を目指す「ヤクルトグループ 環境ビジョン」を策定し、2050年のあるべき姿として「環境ビジョン2050」を定めました。当ビジョンに基づいた実効性のある取り組みを推進するため、「環境目標2030」および「環境アクション（2021 - 2024）」をあわせて策定し、このなかで、環境に関連するマテリアリティのひとつである「プラスチック容器包装」について定量目標を定めました。

当社では、従来から環境配慮型容器包装の基礎技術の確立を目指し、資源循環しやすい素材への転換を進めながら、プラスチック容器包装による環境負荷の低減を図るとともに、容器包装へのプラスチック使用量の削減や生産工程で使用するプラスチック製梱包材の再利用等の取り組みを推進しています。

今後、アールプラスジャパンの取り組みを通じて、使用済みプラスチックの再資源化にも取り組んでまいります。

### ■ 共同出資事業における取り組みについて

当社が参画するアールプラスジャパンは、米国のバイオ化学ベンチャー企業であるアネロテック社（Anellotech Inc.）とともに、環境負荷が少なく効率的な使用済みプラスチックの再資源化技術開発を進めています。世界で共通となっているプラスチック課題解決に貢献すべく、回収プラスチックの選別処理、モノマー製造、ポリマー製造、包装容器製造、商社、飲料・食品メーカーなど業界を超えた連携により、2027年の実用化を目指しています。

### ■ 使用済みプラスチックの再資源化技術について

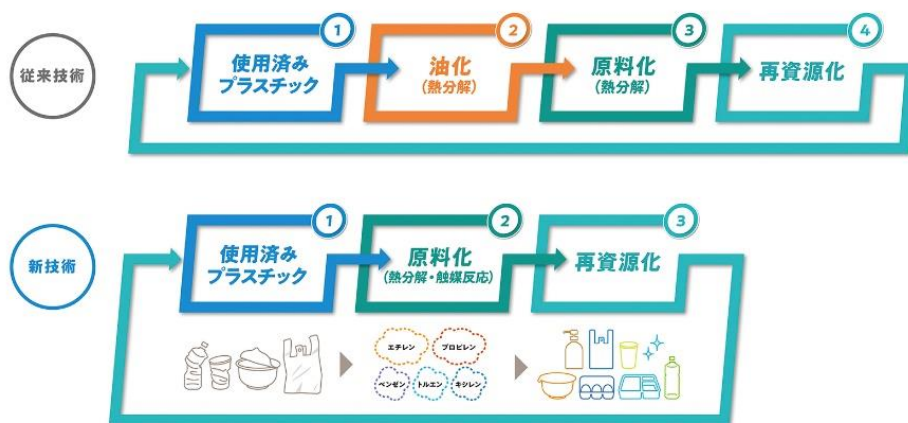
現在、国内ではペットボトル以外のプラスチックの多くが焼却処理<sup>\*1</sup>されていると言われています。今回の技術は、ペットボトルを含むその他一般のプラスチックを、直接原料（ベ

ンゼン・トルエン・キシレン・エチレン・プロピレンなど)に戻すケミカルリサイクル<sup>※2</sup>の技術です。

従来の油化工程を経由するケミカルリサイクルよりも少ない工程で処理でき、CO<sub>2</sub>排出量やエネルギー必要量の抑制につながるものと期待しています。この技術が確立できれば、より多くの使用済みプラスチックを効率的に再生利用することができると考えています。

※1 焼却時に発生する熱を回収し、発電や熱供給に活用するサーマルリカバリー（熱利用）を含む

※2 使用済みの資源をそのままではなく、化学反応により組成変換した後にリサイクルする



## ■ 共同出資会社の概要

会 社 名：株式会社アールプラスジャパン

事 業 開 始：2020年6月5日

本 社 所 在 地：東京都港区台場2-3-3

代表取締役社長：横井恒彦

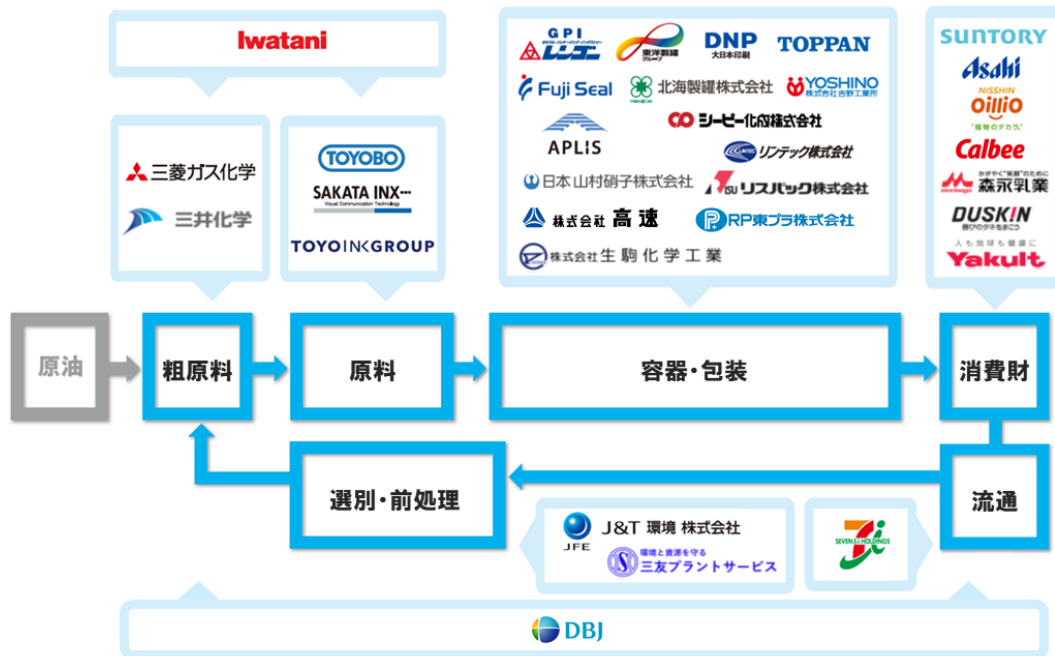
事 業 内 容：使用済プラスチックの再資源化技術の開発・実用化推進

## 【参考】アネロテック社 (Anellotech Inc.) について

2008年創業。米国ニューヨーク州パールリバーに本社・研究開発機能をもつバイオ化学ベンチャー企業。非食用の植物由来原料から石油精製品と同一性能を持つベンゼン・トルエン・キシレンを生成する技術開発を進めている。 <https://anellotech.com/>

## 【参画企業一覧】

2021年11月時点



以上